

若年者に対する精神保健医療福祉の現況調査(概況)

1 アンケート回答率

	配布数	返却数	回収率
医療機関	146	85	58%
相談機関	56	40	71%

受診・相談当事者 回答者 119人

受診・相談同行者 回答者 80人

2 精神科・心療内科医療機関の調査について

調査対象日に受診した全外来患者数は3,596人。うち24歳以下の外来患者は251人で7.0%。

回答いただいた医療機関のうち、思春期外来を標榜している機関は4機関で、若年者向けの教育プログラムや取組を実施している医療機関は3機関(3.5%)。

3 相談機関の調査について

調査対象日の相談者は681人。うち24歳以下の相談者は177人。

専門知識・経験のある精神科医若しくは心理職によるスーパーバイズを受ける体制については「十分ではないものがある」と40機関中29機関(72%)から回答あり。

4 医療機関と相談機関の特徴(差)

受診・相談までの期間：医療機関への受診は6ヶ月以上(39.3%)が最も多く、相談機関への相談は1ヶ月未満(50.9%)が最も多い。

相談対応時間：各機関の対応時間で最も多かったものは、医療機関の医師は10分以上15分未満(30.1%)で、心理士等による相談時間は10分未満(50%)、相談機関は45分以上(73.5%)となっている。精神病性障害については、両機関とも、「精神疾患ではないと考えられる」が最も多く、次いで「精神疾患と考えられる」が多い。「精神疾患と考えられる」割合は、相談機関15%で医療機関が25%となっている。

診断名・推計される診断名では、医療機関は①うつ病 ②適応障害 ③統合失調症 ④広汎性発達障害 ⑤社交不安障害の順で、相談機関は①広汎性発達障害 ②統合失調症 ③精神遅滞 ④社交不安障害の順となっている。

5 受診・相談者の調査について

回答者119人中、96人(80.7%)が医療機関から調査票を配布されている。

通院中が101人(85%)おり、年齢は20～24歳が69人(58%)が最も多い。

6 受診・相談同行者の調査について

回答者80人中、64人(80%)が医療機関から調査票を配布されており、通院中が62人(77%)。

同行者は母67人(83.8%)が最も多く、次いで父6人(7.5%)となっている。

7 受診・相談当事者並びに同行者の調査について

調査票を配布された場所は医療機関(80%以上)が多く、通院・治療中の方で現在の医療機関に満足している(80%以上)という回答が多い。医療機関別では、①精神科診療所 ②精神科病院 ③総合病院の順となっている。

困っている問題や症状は、当事者、同行者ともに①「不安」②「うつ」③「対人恐怖」の順に多い。相談した理由は、当事者、同行者ともに①「精神的な症状」②「不登校・ひきこもり」、③の理由は、

当事者は「自傷・自殺念慮」、同行者は「発達障害の問題」となっている。

カウンセリングについて、「必要(47%)」「やや必要(32%)」と当事者の 94 人(79%)が回答している。

薬物療法について、家族は「必要(48%)」「やや必要(29%)」と 66 人(77%)が回答しており、当事者も「必要があれば服用したい(40%)」「服用したい(17%)」と 68 人(57%)が回答。「あまり服用したくない(23%)」「服用したくない(16%)」と回答した当事者は 46 人(39%)。

「若い人のこころの病気について相談先を教えてくださいの窓口があったら相談したいか」の質問に当事者は 70%、同行者は 89%が「そう思う」「少しそう思う」と回答している。

中学校や高校で「こころの病気の基本的なことを学ぶこと」「こころの病気への対処について学ぶこと」は役に立つかの質問に、当事者は 80%以上、同行者の 90%が「そう思う」「少しそう思う」と回答している。

「家族がこころの病気について勉強する機会が必要か」の質問に、当事者 79%、同行者 96%が「そう思う」「少しそう思う」と回答している。

「当事者が同じようなことで悩んでいる同世代の方と交流する場があればよいか」の質問には、当事者 60%、同行者 84%が「そう思う」「少しそう思う」と回答している。

「家族が同じようなことで悩んでいる家族の方と交流する場があればよいか」の質問には、当事者 53%、同行者 81%が「そう思う」「少しそう思う」と回答している。

「当事者に就労や就学のための相談や支援が必要か」の質問に、当事者 76%、同行者 93%が「そう思う」「少しそう思う」と回答している。

若年者に対する精神保健医療福祉の現況調査
 <精神科医療機関>

調査票A 回収率

	配布数	返却数	回収率
①単科精神科病院	33	25	76%
②総合病院(精神科)病床有	5	4	80%
③総合病院(精神科)病床無	7	2	29%
④総合病院(心療内科)	5	2	40%
⑤精神科クリニック	78	46	59%
⑥心療内科クリニック	18	6	33%
計	146	85	58%

平成 23 年 1 月 14 日に受診した全外来患者数は新患 155 人, 再来 3,444 人, 計 3,596 人。
 うち, 24 歳以下の外来患者数は新患 27 人(18%), 再来 224 人(6.5%), 計 251 人。

平成 23 年 1 月 14 日のデイケア全利用者 579 人中, 24 歳以下の利用者は 26 人(4.5%)。
 24 歳以下のデイケア利用者のうち 20 歳以上が 20 人(76.9%)と多い。

平成 23 年 1 月 17 日の全入院患者 4,270 人中, 24 歳以下の入院者は 73 人 (1.7%)。1 月
 14 日に 24 歳以下で新規に入院した患者数は 2 人。

医療機関の全スタッフ数は 3,599 人, うち①看護師 1,843 人(51.2%), ②医師 278 人(7.7%),
 ③精神保健福祉士 118 人(3.3%), ④作業療法士 109 人(3.0%), ⑤心理職 58 人(1.6%)。

思春期外来を標榜しているのは 4 機関。

若者向け (患者・家族等) の教育プログラム (取組み) を実施している医療機関は 3 機
 関。内訳は, 院内学級が 1 機関, デイケアの家族教室や家族会で勉強会を実施している 2
 機関。

若年者に対する精神保健医療福祉の現況調査
 <精神科医療機関・個票>

調査対象日（平成 23 年 1 月 14 日）に受診した 12～24 歳の者について

調査対象日に受診した 12～24 歳の対象者は 239 人。

調査した医療機関の初診年月は、①「1～6ヶ月」71人(29.7%)、②「3～5年」29人(12.1%)、
 ③「6ヶ月～1年」26人(10.9%)が多い。

年齢	男	女	無回答	計
12～14歳	21	11	2	34
15～17歳	10	27	1	38
18～20歳	19	31		50
21～24歳	45	68	1	114
無回答		1	2	3
計	95	138	6	239

同伴者

続柄	人数
母	89
父	4
父・母	3
知人	2
その他	2
無回答	139

B問5 受診経路(複数回答)

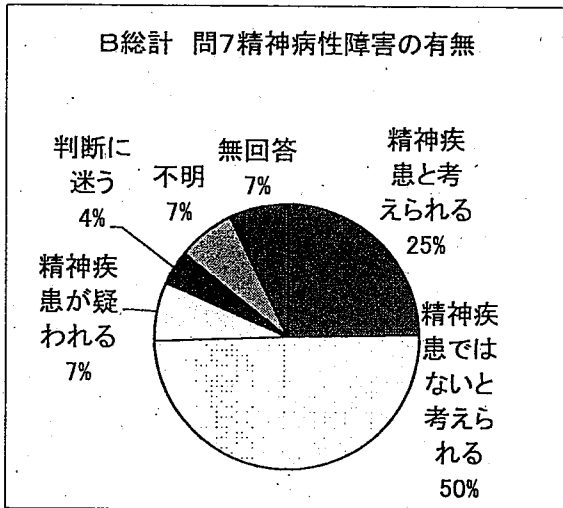
本人自ら	68
親の勧め	65
相談機関など専門機関からの相談・紹介	35
学校からの相談・紹介	21
他の精神科・心療内科以外の医療機関からの相談・紹介	37
友人・知人からの勧め	9
職場からの勧め	4
その他	11

B問3 受診までの期間

期間	人数
1ヶ月未満	55
1ヶ月以上～3ヶ月未満	47
3ヶ月以上～6ヶ月未満	23
6ヶ月以上	94
不明	20

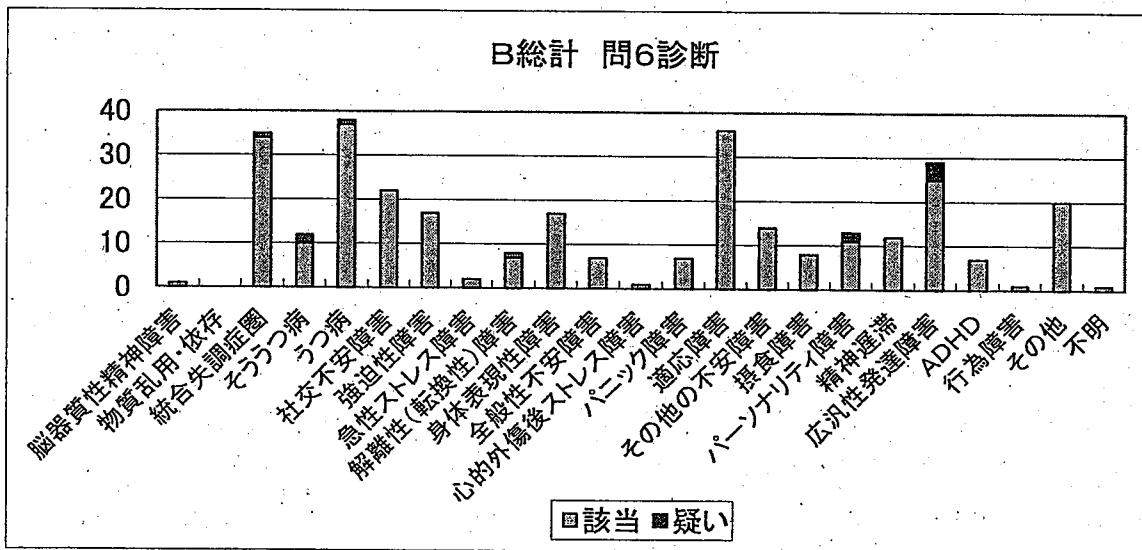
受診までの期間

期間	精神科病院	総合病院(精神科)	精神科クリニック
1ヶ月未満	29%	56%	23%
1ヶ月以上～3ヶ月未満	20%	11%	20%
3ヶ月以上～6ヶ月未満	7%	22%	10%
6ヶ月以上	29%	11%	39%
不明	15%	0%	8%

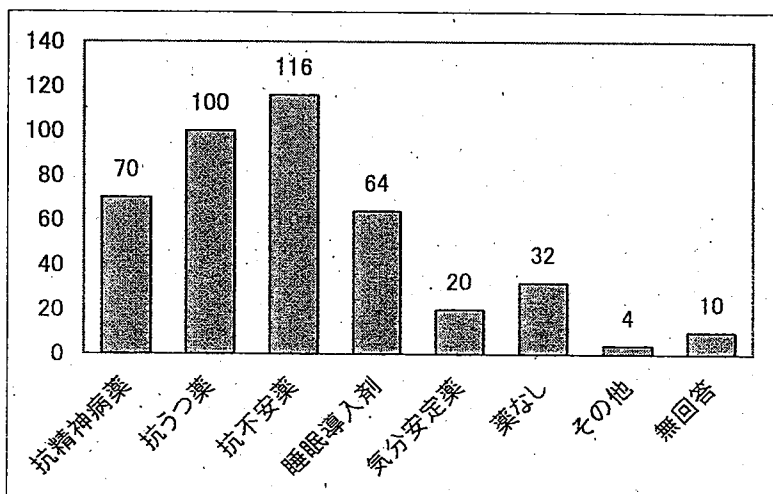


精神病性障害について、「精神病性の精神疾患ではないと考えられる(119人)」50%、「精神疾患と考えられる(59人)」「精神疾患が疑われる(17人)」が32%、「判断に迷う(10人)」4%と回答。

診断名(疑いを含む)では、①「うつ病(38人)」、②「適応障害(36人)」、③「統合失調症(35人)」、④「広汎性発達障害(29人)」、⑤「社交不安障害(22人)」が多い。



薬物療法の状況(複数回答)



問9 医師によるおおよその診療時間について

時間	人数
10分未満	75
10分以上～15分未満	67
15分以上～30分未満	51
30分以上～45分未満	21
45分以上	8

問9 心理士, PSW, OT等による相談・カウンセリングのおおよその時間について

時間	人数
10分未満	19
10分以上～15分未満	2
15分以上～30分未満	7
30分以上～45分未満	6
45分以上	4

問9 今回, 心理士, PSW, OT等による相談・カウンセリングでの家族へ対応したおおよその時間について

時間	人数
5分未満	20
5分以上～15分未満	0
15分以上～30分未満	1
30分以上～45分未満	1
45分以上	1

若年者に対する精神保健医療福祉の現況調査

<相談機関>

調査票 C 回収率

	配布数	返却数	回収率
市町村(仙台市除く)	34	21	62%
保健所(県・仙台市)	14	13	93%
精神保健福祉センター(県・市)	2	1	50%
児童相談所(県・仙台市)	4	4	100%
県子ども総合センター	1	0	0%
市子供相談支援センター	1	1	100%
計	56	40	71%

調査対象日の相談者等について

回答のあった 40 機関における平成 23 年 1 月 14 日の相談者数は、新規 108 人、継続 573 人、計 681 人。うち 24 歳以下の相談者数は、新規 28 人、継続 149 人、計 177 人。

専門知識・経験のある精神科医もしくは心理職によるスーパーバイズを受ける体制は、「十分ではないもののある(29 ヲ所)」72%、「十分にある(6 ヲ所)」15%、「体制はないが必要である(5 ヲ所)」13%と回答。

精神保健の早期対応・支援のために必要なことについて、「マンパワーの充実」、「スタッフの研修の充実」、「医学的なコンサルテーション」、「教育機関等との連携体制の整備」のいずれも「そう思う」「少しそう思う」の合計が 100%に近い。

行政施策として必要なことについて、「重点施策としての取組み」「学校での精神保健の授業」「保護者への普及啓発」「社会全般に関する普及啓発」「ホームページの開設」「連携やトリアージを行う若者向けの相談サービス」のいずれも 90%以上が「そう思う」「少しそう思う」と回答している。

自由記載の記載があったのは 40 ヲ所中 24 ヲ所。

自由記載

若年者(層)に関する相談はほとんどないが、これからは増えると思われる。人に知られたくないという人が多いように思われるので、精神疾患に対する考えの普及啓発が必要と思う。

若年層を診ることができる医療機関がよく分からない。

若年者からの相談は町にはあまりきてないように思う。当事者、家族が早期に対応されているが等の実態を町では把握しておりません。

不登校などの適応障害と精神科疾患の境目が市民はもちろん、保健師などにも判断が難しい。思春期外来といいながら、電話で不登校は専門外と窓口担当が判断して、断る場合も多いようだ。トリアージを行う専門相談サービスは必要と感じている。

若年者の場合、学校に在籍している時から何らかの問題を抱えていることが多い。多くは高校卒業(中退)の時点で支援が途切れたりする。必要な関係機関につなげられるシステムがあるとよい。スクールカウンセラーの配置はもっと充実させていくべき。関係者が支援のために協議できる場も必要と思う。

ここ数年、メンタルヘルスに問題を抱えた若年者が増加しているように感じている。解決しなければならぬ時期に解決できずに、問題を先送りし、おとなになってから社会に適応できずに居場所のない生活を余儀なくされている事例(不登校やいじめ、発達障害や知的障害、パーソナリティの問題や被虐待児…など)に頭を悩ませることが多い。

子どもに関わる関係者間(保護者を含めた)での問題意識の共有、理解を深めるための研修、早期支援・継続支援のための連携、など、子どものメンタルヘルスを社会で支えていく仕組みが必要と感じている。

不登校・いじめなどは家族の問題がひそんでおり、早期より関係機関の連携及び介入が必要と思う。(精神疾患・自殺へと移行してしまわないうちの予防対策として)

学校との連携はかなりネックになる。年齢が過ぎるとつながりが切れる問題あり。又、医療機関(専門)がどこにあるかよくわからないので研修や情報提供を希望いたします。

保護者への啓発、とくにプライバシー保護、継続した支援についてよく理解し、納得していただくことが肝要と思います。

早期対応のための他機関との連携・不登校、ひきこもり対策(学校との連携)

本人からの相談はほとんどない。まずは家族からの相談がほとんどである。

- ・本人が拒否することが多く、改善策が見つかりにくい。
- ・ケースによっては家族が動かされて又は家族だけが動いて疲れてしまい、家族支援も重要だが、家族をどこにつなげばよいか迷うことも多い。

- ・ひきこもりや不登校の相談では、来るのはほとんど家族で本人は家から出ることもできないため、医療機関への受診も難しい。相談を受けてもどのようにしたらよいか判断に迷います。相談機関の充実や対応についての研修を要望します。

- ・学校での教育相談と、行政(保健)での相談との2つの流れがあるので保護者も悩むし、スタッフとしても連携を取りつつ進めていても、方向性に悩むことが多い。

- ・早期支援をすすめていくためには、学校等関係機関との連携が重要と感じます。

- ・本人よりも保護者が「知られたくない」という思いが強く、ケアが進まない(広がらない)ことがあります。

<p>・中学・高校生などの若年で発症した場合の社会資源が不足している。家族教室につないでも、他参加者とテーマを共有できない。自治体における思春期デイケアの設置、就労ではなく復学や生活技術、社会性を育てるためのプログラムが必要。また、学校側でも、発達障害だけでなく今後Szの生徒に対する理解・適切な受け入れ体制が望まれる。</p>
<p>・当所にひきこもりや就労・問題行動等で相談がある20代、30代の人たちの生育歴等をみると、中学高校時代に不登校や自殺企図等の問題があり、相談機関に相談するがそのままになっていたり、全く相談ルートにのっていなかったりで、種々の問題を抱えたまま成人している人が多い印象があります。連携の問題やPRの問題等原因はいろいろあるとは思いますが、もう少し早い時期に背景にある問題を鑑別し(病気なのか、知的な問題なのか、環境の問題なのかなど)継続的に支援できる専門的な人材や機関があるとよいと思います。</p>
<p>・若年者の精神疾患や発達障害の有無などの鑑別を早期に行え、支援できる機関があるとよい。若年者向けにコミュニケーションや生活能力等の向上のための訓練ができる機関が身近な場所にあるとよい。(精神デイケア等)</p>
<p>・保護者がその問題に対して、あまり働きかけがなく動機付けが難しいと感じる。</p>
<p>・思春期の時期であるから、精神的に不安定になっていても長期間家庭で様子を見ることが多く、保護者への動機付け(保護者が専門機関にまず相談してみるとか病気の可能性もあること等)や学校を中心としたスタッフへの情報提供、スーパーバイズ機能が必要。 ・精神科への保護者の抵抗感があるため、思春期外来等の整備が必要。</p>
<p>・受診に際して、保護者から了解が取れない、あるいは取りにくいという相談が本人や学校から時に寄せられることがある。</p>
<p>・他機関との連携: 児童福祉について主に相談していく中で、適切と思われる精神保健関連部署での相談も勧めていく時の連携(機能のすみ分け)が難しい。</p>
<p>・各区の障害高齢課との連携の難しさ。通院公費負担や手帳取得に該当しないケースの場合、18歳以下で児童相談所が支援しているとあまり介入してもらえない気がする。(あくまで印象ですが...) ・保護者が、家族としての支援機能を果たせない家庭も多く、(保護者も精神疾患を持っている等)、親も含めた支援が必要と思うが、時間と労力がとてもかかる。</p>
<p>・児童精神保健に対応する専門医療機関は仙台方面に集中し、数も少ないためタイムリーな相談が難しい。 ・児童相談所に児童精神科医は常駐しておらず、また、心理職の人数も少ないなどマンパワーの問題がある。 ・若年者の精神保健の課題が明確でない。 ・発達障害児・者の支援の取り組みが各分野でバラバラ。それぞれの役割や連携の確認が必要。</p>
<p>・当センターは精神保健に関する相談を主として受ける機関ではない。その為保護者又は本人へ動機付けを行い、医療機関につないでいくことに難しさを感じている。</p>
<p>・保護者に対する普及啓発(知識及び相談窓口)</p>

若年者に対する精神保健医療福祉の現況調査
 <相談機関・個票>

調査対象日（平成23年1月14日）に受診した12～24歳の者について

調査対象日に受診した12～24歳の対象者は51人。

調査した相談機関の初診年月は、①「1～6ヶ月」20人(39.2%)、②「1ヶ月未満」15人(29.4%)、③「6ヶ月～1年」9人(17.6%)が多い。医療機関よりも早期に相談している傾向がある。

年齢	男	女	計
12～14歳	10	6	16
15～17歳	4	7	11
18～20歳	4	6	10
21～24歳	6	8	14
計	24	27	51

相談者

続柄	人数
A本人	39
B親	42
C学校関係者	8
Dその他家族	0
Eその他	1

(複数回答)

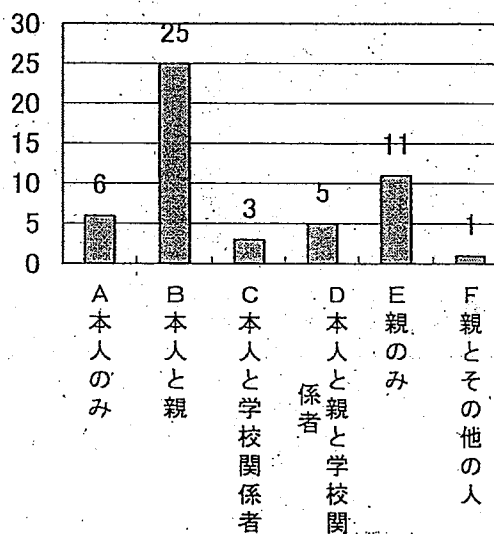
問6 相談経路

A本人自ら	3
B親の進め	4
C相談機関などの専門機関からの相談・紹介	16
D学校からの相談・紹介	10
Eインターネット等の情報を見て	1
Fテレビ・新聞・雑誌等を見て	0
G友人・知人からの勧め	0
H他の精神科・心療内科以外の医療機関からの相談・紹介	3
Iその他	12
無回答	2

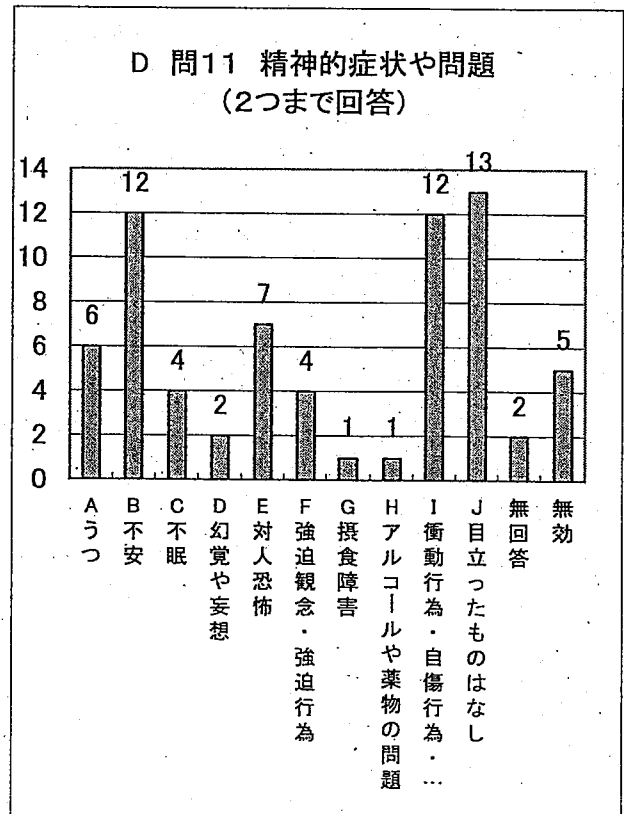
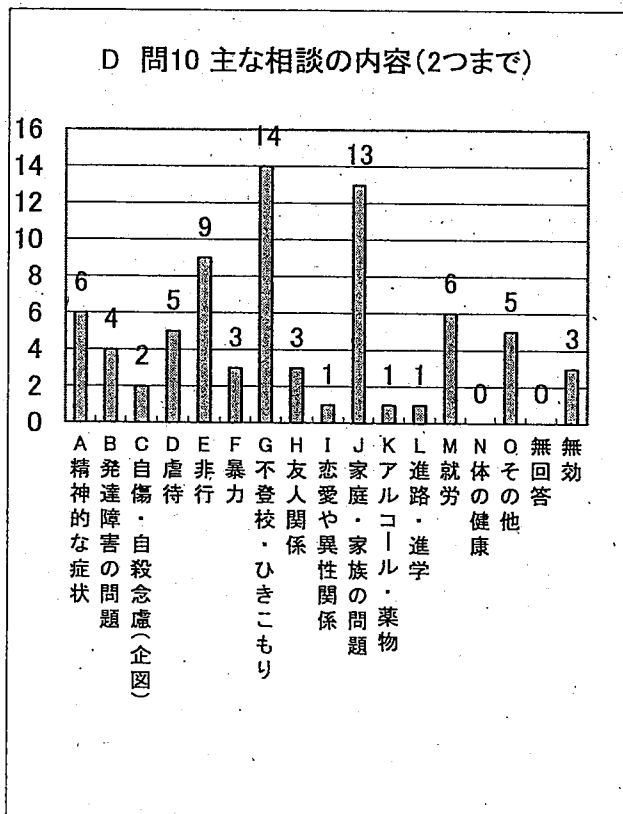
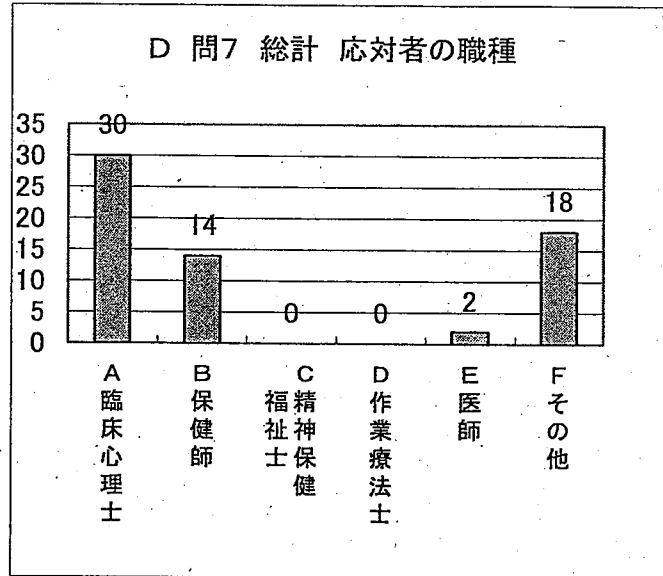
問3 相談までの期間

期間	人数
1ヶ月未満	26
1ヶ月以上～3ヶ月未満	6
3ヶ月以上～6ヶ月未満	1
6ヶ月以上	15
不明	3

D4' 相談者の組み合わせ



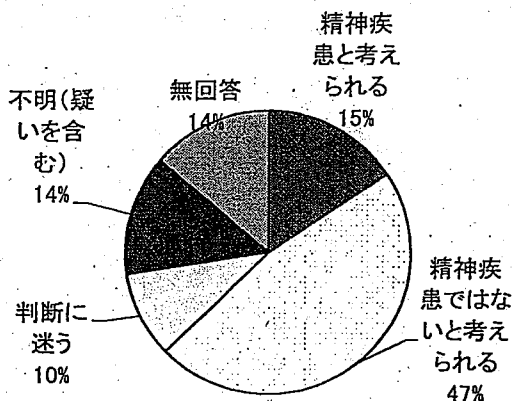
対応者は、①臨床心理士(30人)、
②保健師(14人)の順に多い。その他で
多いのは児童福祉司。



症状や問題は「目立ったものはない(13人)」が一番多く、次いで「不安(12人)」、「衝動行為・自傷行為・対人トラブル(12人)」が多い。

主な相談内容は、①「不登校・ひきこもり(14人)」、②「家庭・家族問題(13人)」、③「飛行(9人)」。

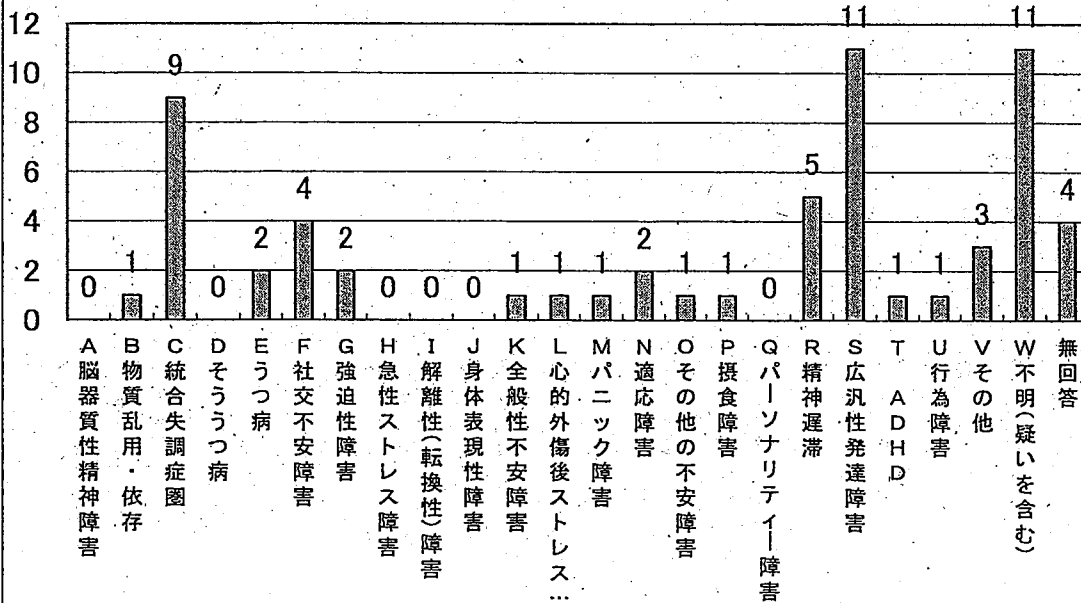
D9②精神病性障害の有無



精神病性障害について、「精神病性の精神疾患ではないと考えられる(24人)」47%、「精神疾患と考えられる(8人)」が15%、「判断に迷う(5人)」10%、「不明(疑い含む)(7人)」14%と回答。

推計される診断名(不明を除く)では、①「広汎性発達障害(11人)」、②「統合失調症(9人)」、③「精神遅滞(5人)」; ④「社交不安障害(4人)」が多い。

D 問8 総計 推定される診断名



精神科への通院状況は、①「通院していない(24人)」47.1%、②「通院中(22人)」43.1%、「中断中(3人)」5.9%。

精神科への紹介の必要性は、①「今のところ必要ない(21人)」41.2%、②「通院中で継続(19人)」37.3%、③「判断が難しい(6人)」11.8%と回答。

問 12 相談時間について

時間	人数
10分未満	0
10分以上～15分未満	0
15分以上～30分未満	5
30分以上～45分未満	8
45分以上	36

問 13 相談で家族へ対応したおおよその時間について

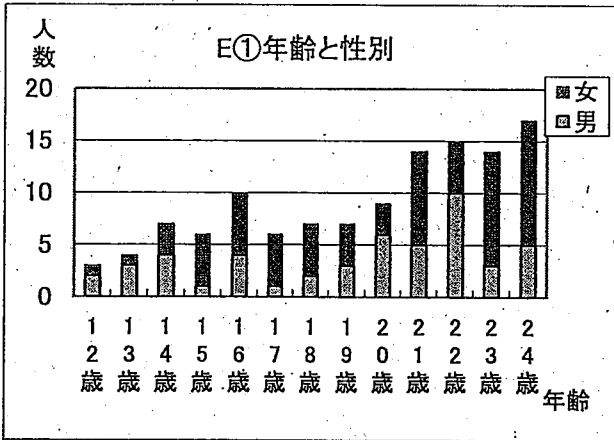
時間	人数
5分未満	2
5分以上～15分未満	3
15分以上～30分未満	8
30分以上	25
無回答・家族同伴なし	13

自由記載から抜粋

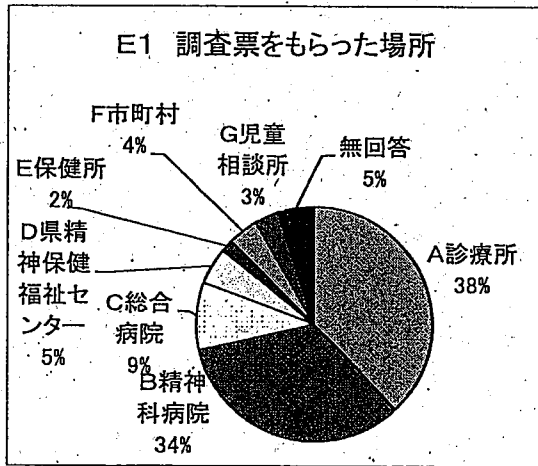
- ◆ いじめ、虐待などの生育歴が背景にあり、対人関係の不安や生きづらさを抱えていたり、不登校・ひきこもりに移行してしまう事例が多い。これらの問題を家庭内で抱え込み、問題が複雑になってから相談機関につながる事例があるため問題が小さい早期の段階に介入できるように学校保健等と連携して支援できる体制の強化が必要に思われる。
- ◆ 当初、両親のみの来談で、両親は本人の来所をあきらめていたが、改めて本人を誘ってもらったところ、意外にあっさりと来談した。中学や高校の時点でひきこもり状態になり、周囲の働きかけに反応しなかったケースが、20歳を過ぎた頃に改めて声がけされるとなんらかの反応を示す、ということを度々経験している。このタイミングを逃して30代に突入してしまうと再び反応が困難になってしまうような印象がある。早期かつ継続的な(あきらめない)支援の大切さを痛感している。

若年者に対する精神保健医療福祉の現況調査
 <受診・相談者>

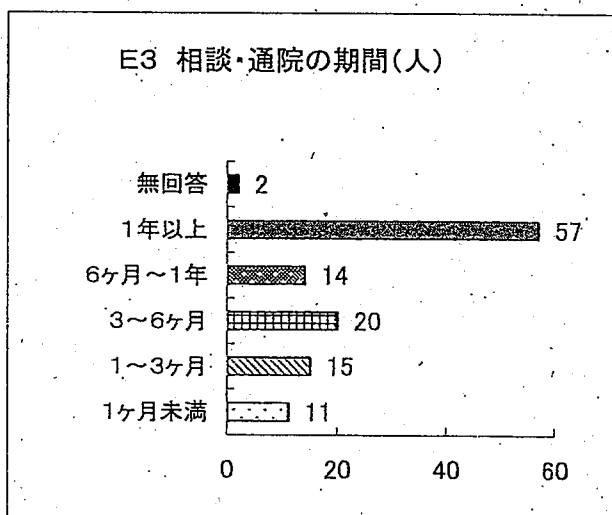
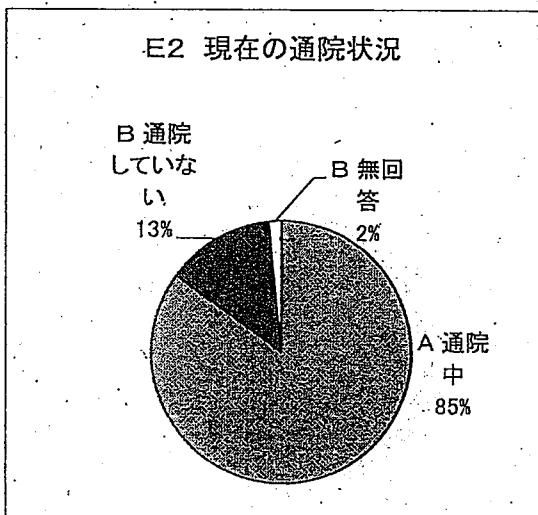
年齢	12～15歳	16～19歳	20～24歳	計
男	10	10	29	49
女	10	20	40	70
計	20	30	69	119



職業等は、無職 21 人(20.4%)、高校生が 16 人(15.5%)、中学生が 14 人(13.6%)、大学生 13 人(12.6%)、正職員 10 人(9.7%)。

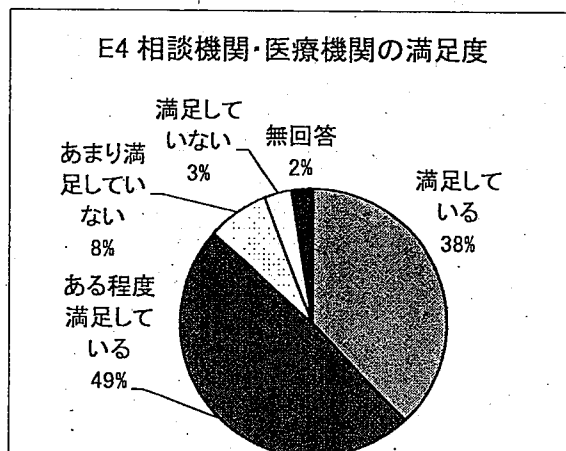


調査票をもらった場所は、①診療所 45 人(38%)、②精神科病院 40 人(34%)、③総合病院 11 人(9%)、以下、精神保健福祉センター5 人、児童相談所 3 人、市町村 1 人、保健所 1 人の順となっている。



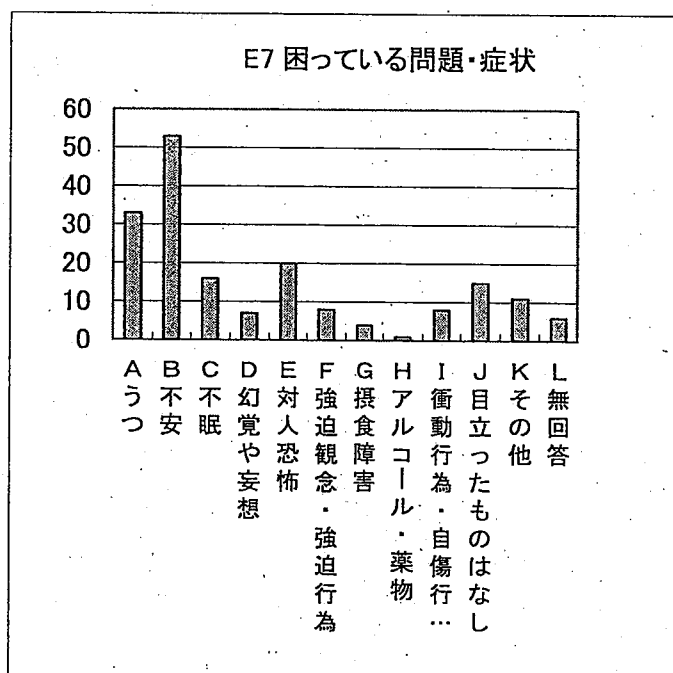
現在の相談機関・医療機関に満足しているかの質問に、①「ある程度満足している(58人)」、②「満足している(45人)」と回答。

満足していない理由のうち、「心理的な治療・カウンセリングをもっとしてほしい(7人)」が一番多く、次いで「進路や仕事についての相談をもっとしてほしい(5人)」、「もっと時間をかけてほしい(4人)」となっている。



相談した理由は、①「精神的な症状(79人)」、②「不登校・ひきこもり(23人)」、③「自傷・自殺念慮(16人)」、④「体の健康(14人)」、⑤「発達障害の問題(12人)」が多い。

困っている問題や症状は、①「不安(53人)」、②「うつ(33人)」、③「対人恐怖(20人)」が多い。

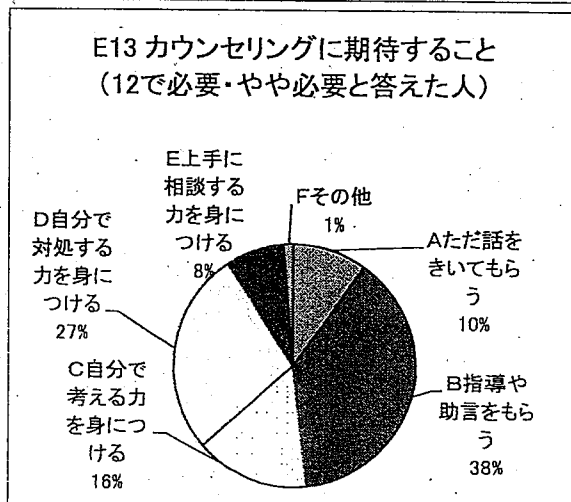


相談できる相手は①「父母(77人)」、②「友人(60人)」、③「精神科医(43人)」、④「相談機関(29人)」で、相談しづらい相手は①「友人(43人)」、②「父母(37人)」、③「兄弟姉妹(30人)」。
ちなみに学校関係では、「相談できる相手」にスクールカウンセラー19人、養護教諭16人、教職員16人、「相談しづらい相手」に教職員28人、スクールカウンセラー9人、養護教諭9人と回答。

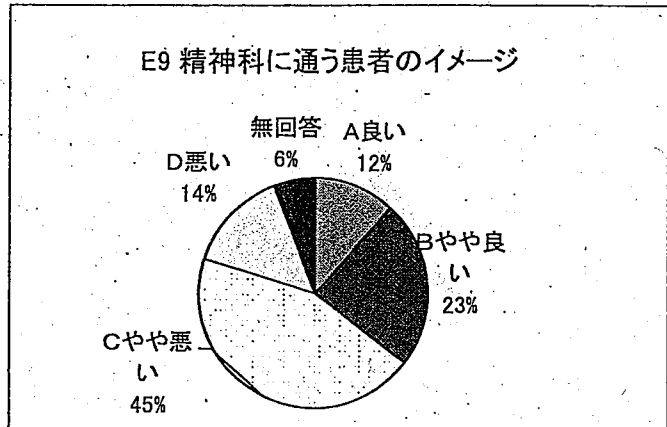
カウンセリングは、「必要(56人)」、「やや必要(38人)」と79%が必要と回答。

必要と回答した者のうち期待することは、①「指導や助言をもらおう(62人)」、②「自分で対処する力を身につける(44人)」が多い。

グループによる心理的治療は①「あまり必要ない(34人/36%)」、②「やや必要(26人/30%)」、③「必要(16人/17%)」、④「必要ない(13人/14%)」と回答。



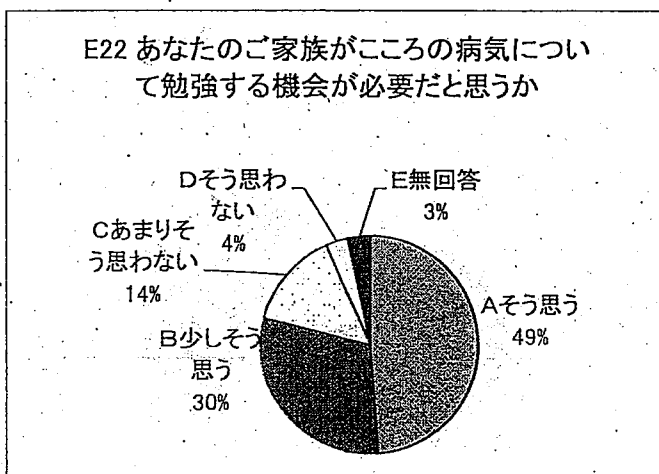
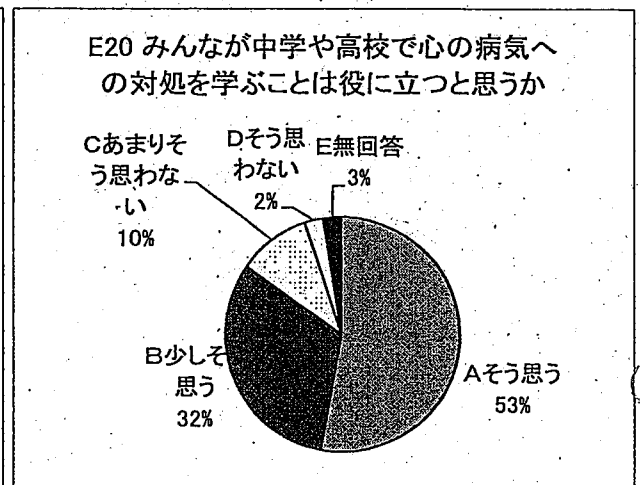
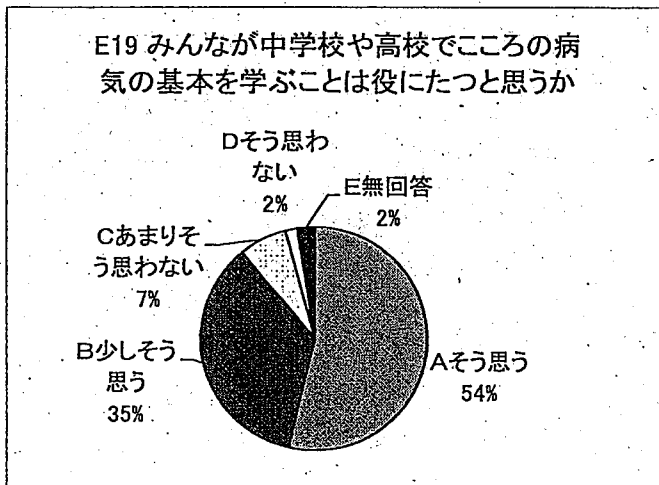
精神科に通う患者のイメージは、「良い・やや良い」が32人(35%)、「悪い・やや悪い」が70人(59%)で悪いイメージをもっている者が多い。



若い人の心の病気について相談先を教えてくださいという窓口があったら利用したいかの質問では、「そう思う(50人)」「少しそう思う(32人)」と70%が利用したいと回答している。

中学校や高校でこころの病気について学んだことがあるかの質問には、「ある(22人/18%)」「ない(94人/79%)」と回答しており、学校では学ぶ機会が少ない現状が示されている。

中学校・高校でこころの病気の基本的なことや対処法について学ぶことについて役にたつと思うかの質問では、いずれも「そう思う」「少しそう思う」の回答が80%を超えている。



家族がこころの病気について勉強する機会が必要かの質問に「そう思う(56人)」「少しそう思う(36人)」と79%が回答しており、当事者自身が家族に勉強してほしいと感じていることが示されている。

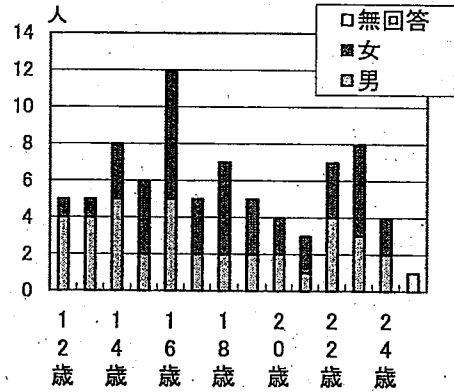
若年者に対する精神保健医療福祉の現況調査

＜同行者＞

当事者の状況

	男	女	無回答	計
12～15歳	15	9		24
16～19歳	11	18		29
20～24歳	12	14		26
無回答			1	1
計	38	41	1	80

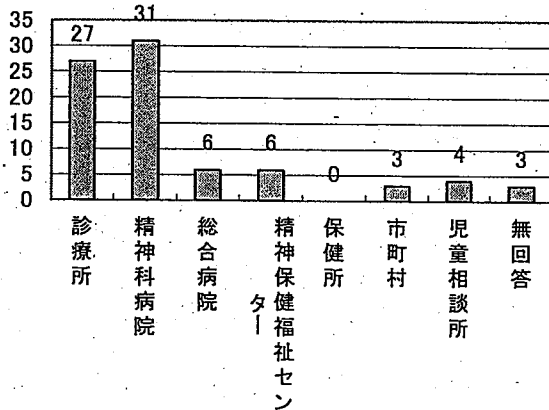
F1① 当事者の年齢と性別



学生が54人(67.5%)で、うち44人が通学、10人が休学中。就労中が7人(8.8%)のうち2人が休職中。

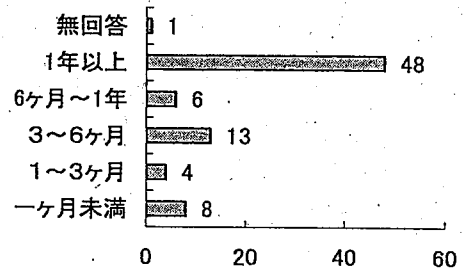
同行者は「母(67人)」が多く、次いで「父(6人)」。「無回答」5人。

F3 調査票をもらった場所

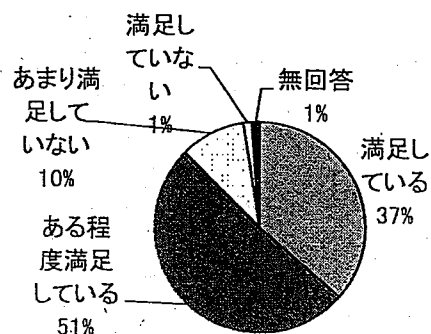


通院状況では、通院中(62人)が77%いる。

F5 当事者の方は今の相談機関・医療機関にどのくらいの期間通っていますか

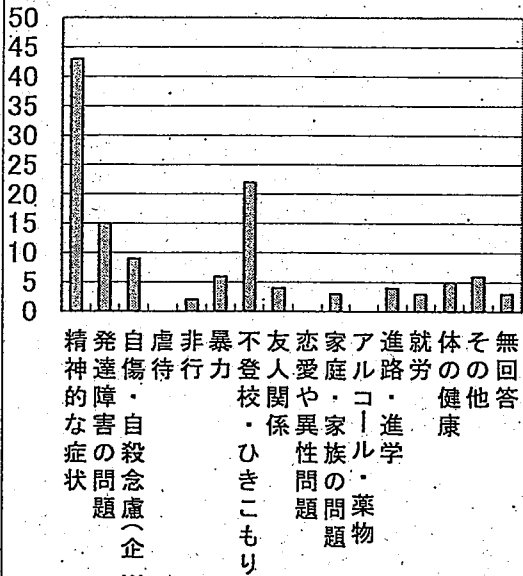


F6 ご家族等(あなた)は今の相談期間または医療機関に満足していますか

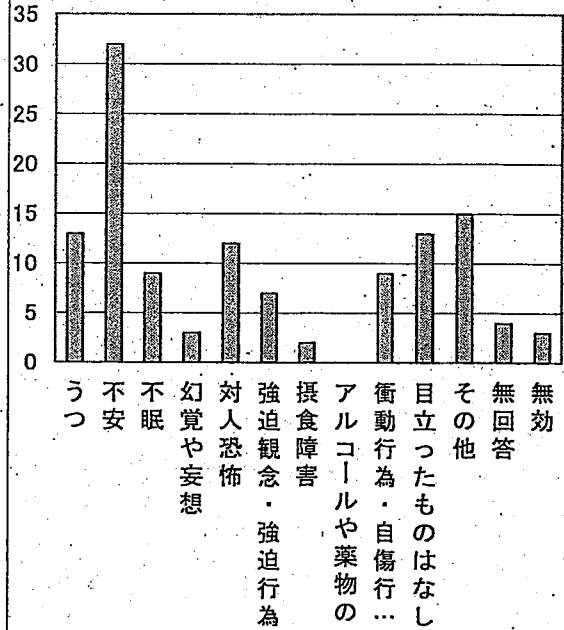


「あまり満足していない」「満足していない」理由(複数回答)は、①「心理的な治療・カウンセリングをもっとしてほしい(7人)」, ②「専門家の意見を聞きたい(3人)」が多い。

F8 当事者の方が受診又は相談した主な理由は何ですか



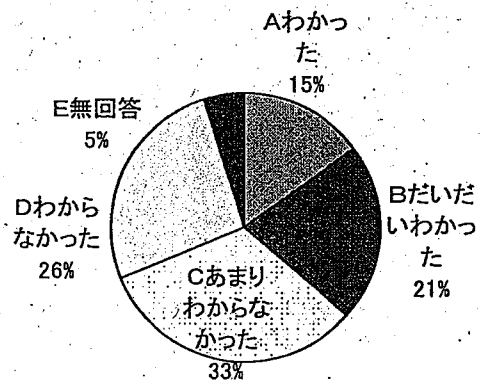
F9 当事者の方が今困っている精神的な症状や問題は何ですか



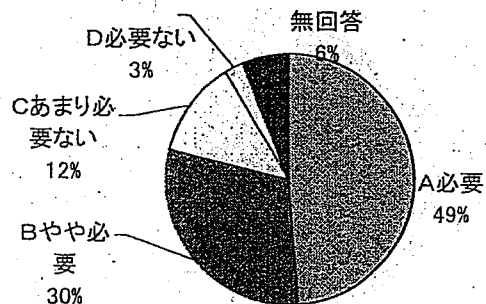
相談できる相手は、①「夫・妻(27人)」、②「学校の先生(22人)」、「友人(22人)」、③「精神科医(18人)」。

相談しづらい相手は、①「親戚(22人)」、②「学校の先生(17人)」、③「友人(9人)」。

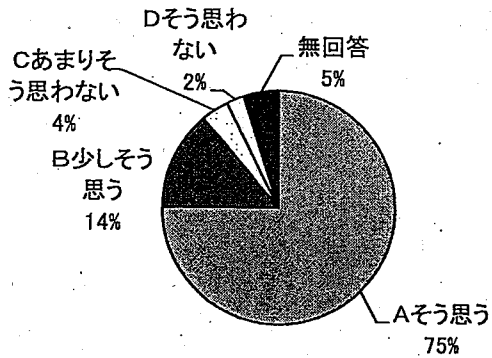
F10 当事者の方の困っている問題について、はじめにどこに相談したらよいか分かりましたか



F14 家族向けの研修プログラムが必要だと思いますか



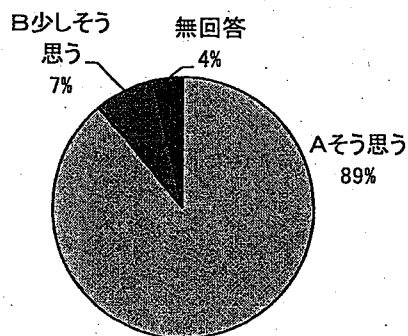
F17 若い人のこころの病気について、
相談先を教えてくださいの窓口があったら利
用したいと思いますか



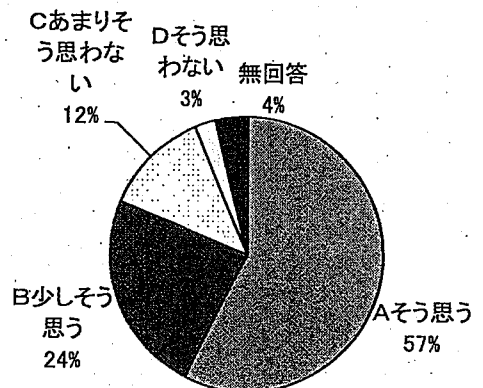
中学校や高校で「こころの病気の基本的な
ことを学ぶこと」「こころの病気への対処に
ついて学ぶこと」は役に立つかの質問には、
「そう思う」「少しそう思う」と90%が回答
している。

当事者が心の病気について勉強する機会
の必要性もそう思う(62人)77%, 少しそう思
う(10人)12%と高い。

F21 ご家族の方がこころの病気につ
いて勉強する機会が必要だと思います
か



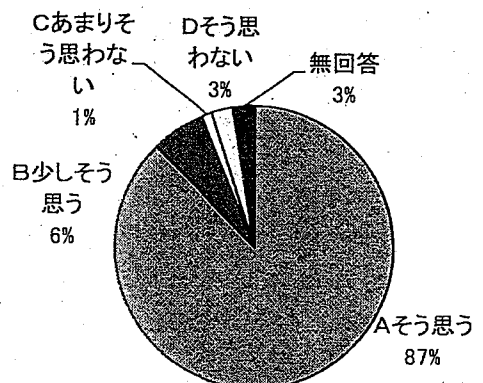
F23 ご家族の方が、同じようなことで悩
んでいる家族の方との交流の場があれ
ばいいと思いますか



家族がこころの病気について勉強する機会が
必要かの質問には「そう思う(71人)」「少しそう
思う(6人)」と96%が回答。

家族の交流の場について、あればいいと「そう
思う(46人)」「少しそう思う(18人)」と81%が回
答。

F24 当事者の方が、就労や就学のため
の相談や支援が必要だと思いますか



「若年者に対する精神保健医療福祉の現況調査」実施要領

1 調査目的

将来の社会を支える担い手である若年者（層）の精神疾患への早期介入は、現在先進諸国においては、国家施策レベルでの取組がなされており、また、国の「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」においても、「若年者（層）に対する早期支援体制の構築を進めるべき」との提言もなされているところである。

県及び仙台市においても、若年者（層）への精神保健福祉施策の充実を図るべく、平成21年度より精神保健福祉審議会の下に検討部会を設置し、各施策の検討を進めているところである。

今回、各関係機関を通じて若年者（層）に対する精神保健医療福祉の現況調査を実施し、若年者（層）のニーズ等に沿った、より充実した施策の検討・立案等を目的とするものである。

2 調査対象（者）機関及び調査内容

① 精神科医療機関

精神科及び心療内科を標榜する医療機関

■精神科等を標榜する医療機関を対象とする調査（総括票（調査票A））、（個票（調査票B））

■受診・相談に来られた方を対象とする調査票（調査票E）

■受診・相談に来られた方に同行された方を対象とする調査票（調査票F）

② 精神保健相談機関

県精神保健福祉センター、仙台市精神保健福祉総合センター、県・仙台市保健所、各市町村（仙台市を除く）

県・仙台市児童相談所、仙台市子供相談支援センター

■精神保健相談機関を対象とする調査票（総括票（調査票C））、（個票（調査票D））

■受診・相談に来られた方を対象とする調査票（調査票E）

■受診・相談に来られた方に同行された方を対象とする調査票（調査票F）

3 調査方法等

別添のとおり

4 秘密の保持

調査関係者は、この調査で知り得た個人及び個々の専門機関に関わる情報を外部に漏らしてはならない。

精神科等を標榜する医療機関に対する調査に係る留意事項

1 調査対象機関

精神科及び心療内科を標榜する医療機関とする

2 調査対象日

平成23年1月14日の1日を対象日とする

3 調査対象年齢

12歳から24歳

4 配布調査票及び調査方法等

①精神科等を標榜する医療機関を対象とする調査票（総括）（調査票A）

調査対象日の医療機関の受診者等を調査するものですので、各設問に従い記入願います。

※質問4, 6, 8, 9は24歳以下を対象としておりますので御留意願います。

②精神科等を標榜する医療機関を対象とする調査票（個票）（調査票B）

調査対象日に医療機関を受診した者のうち、12歳から24歳の方に限定して、個票の記入をお願いします。

③受診・相談に来られた方を対象とする調査票（調査票E）

調査対象日に医療機関を受診した者のうち、12歳から24歳の方に対して、「当該調査票」及び「調査協力のお願い」並びに「返信用封筒」の配布をお願いいたします。ただし、その場で記入いただける場合は、記入後、医療機関側でお預りいただき、①及び②の調査票と同封の上返送願います。

※配布に当たっては、『「調査協力のお願い」に目を通して下さい』と一言お伝え下さいますようお願いいたします。

④受診・相談に来られた方に同行された方を対象とする調査票（調査票F）

調査対象日に医療機関を受診した者が12歳から24歳に該当する場合であって、家族等の方と同行された場合、その家族等に対して「当該調査票」及び「調査協力のお願い」並びに「返信用封筒」の配布をお願いいたします。ただし、その場で記入いただける場合は、記入後、医療機関側でお預りいただき、①及び②の調査票と同封の上返送願います。

※配布に当たっては、『「調査協力のお願い」に目を通して下さい』と一言お伝え下さいますようお願いいたします。

精神保健相談機関に対する調査に係る留意事項

1 調査対象機関

県精神保健福祉センター，仙台市精神保健福祉総合センター，保健所，市町村，児童相談所
仙台市子供相談支援センター

2 調査対象日

平成23年1月17日から1月21日まで（児童相談所）

平成23年1月17日から2月4日まで（児童相談所以外の相談機関）

3 調査対象年齢

12歳から24歳

4 配布調査票及び調査方法等

①精神保健相談機関を対象とする調査票（調査票C）

※調査対象年齢に関係なく、お答えいただく設問が多くありますので留意願います。

②精神保健相談機関を対象とする調査票（個票）（調査票D）

調査対象日に相談機関に来所した者のうち、12歳から24歳に該当する者について、個票を記入願います。

③受診・相談に来られた方を対象とする調査票（調査票E）

調査対象日に相談機関に来所した者のうち、12歳から24歳に該当する者に対して、「当該調査票」及び「調査協力のお願ひ」並びに「返信用封筒」を配布願います。ただし、その場で記入いただける場合は、記入後、相談機関側で預かっていただき、①及び②の調査票と同封の上返送願います。

※配布に当たっては、『「調査協力のお願ひ」に目を通して下さい』と一言お伝え下さいますようお願いいたします。

④受診・相談に来られた方に同行された方を対象とする調査票（調査票F）

調査対象日に相談機関に来所した者が12歳から24歳に該当する場合であって、家族等の方と同行された場合、その家族等に対して「当該調査票」及び「調査協力のお願ひ」並びに「返信用封筒」を配布願います。ただし、その場で記入いただける場合は、記入後、相談機関側で預かっていただき、①及び②の調査票と同封の上返送願います。

※配布に当たっては、『「調査協力のお願ひ」に目を通して下さい』と一言お伝え下さいますようお願いいたします。

精神科等を標榜する医療機関を対象とする調査票（総括票）（調査票 A）

医療機関名：_____

質問1 標榜している診療科目について、該当するものを○で囲んで下さい。

精神科 心療内科

質問2 思春期外来を標榜していますか。（該当するものを○で囲んで下さい。）

はい（毎週 曜日、第 曜日） いいえ

質問3 調査対象日における全外来患者数（新患・再来(デイケアを除く)）について記入願います。

新患 人 再来 人

質問4 調査対象日における24歳以下の外来患者数について年齢別に御記入願います。

【新患】

11歳以下	人	12歳	人	13歳	人	14歳	人	15歳	人
16歳	人	17歳	人	18歳	人	19歳	人	20歳	人
21歳	人	22歳	人	23歳	人	24歳	人	計	

【再来】

11歳以下	人	12歳	人	13歳	人	14歳	人	15歳	人
16歳	人	17歳	人	18歳	人	19歳	人	20歳	人
21歳	人	22歳	人	23歳	人	24歳	人	計	人

質問5 調査対象日におけるデイケア全利用者数 _____ 人

質問6 質問5のうち24歳以下のデイケア利用者について年齢別に御記入願います。

11歳以下	人	12歳	人	13歳	人	14歳	人	15歳	人
16歳	人	17歳	人	18歳	人	19歳	人	20歳	人
21歳	人	22歳	人	23歳	人	24歳	人	計	人

質問7 平成22年 月 日における全入院患者数 _____ 人（病院のみの設問です）

質問8 質問7のうち24歳以下の入院患者について年齢別に御記入願います。

11歳以下	人	12歳	人	13歳	人	14歳	人	15歳	人
16歳	人	17歳	人	18歳	人	19歳	人	20歳	人
21歳	人	22歳	人	23歳	人	24歳	人	計	人

質問9 調査対象日において、24歳以下の患者で新規に入院（自院・他院）した患者数について御記入願います。

_____ 人

質問10 貴医療機関のスタッフについてお答え下さい。

医師 人 看護師等 人 心理士 人 精神保健福祉士 人
作業療法士 人 その他 人 計 人

質問11 若者向け（患者・家族等）の教育プログラム（取り組み）を実施している場合、その内容について記載願います。

以上になります。御協力ありがとうございました。

精神科等を標榜する医療機関を対象とする調査票（個票）（調査票B）

診療日：平成 年 月 日

医療機関名：

◆調査当日、デイケア参加のみの場合、にチェック（レ点）を付けて下さい。

年齢	歳	性別	男・女	同伴者	父・母・親類・知人・その他（ ）
居住地住所	県	市・郡	区・町		
1 当院以前に治療歴がある場合、精神科・心療内科の初診年月			H	年	月
2 当院での初診年月			H	年	月
3 精神科受診が必要と思われる時期から受診までの期間 A. 1ヶ月未満 B. 1ヶ月以上～3ヶ月未満 C. 3ヶ月以上～6ヶ月未満 D. 6ヶ月以上					
4 御本人の受診に対する態度について、該当するものに○を付けて下さい。 A. 積極的 B. 消極的 C. 拒否的					
5 今回の主な受診経路について、該当するものに○を付けて下さい。 A. 本人自ら B. 親の勧め C. 相談機関などの専門機関からの相談・紹介 D. 学校からの相談・紹介 E. 他の精神科・心療内科以外の医療機関からの相談・紹介 F. 友人・知人からの勧め G. 職場からの勧め H. その他（ ）					
6 診断名：該当するものにチェック（レ点）を、いわゆる疑い診断の場合は？を付けて下さい。（複数可） <input type="checkbox"/> 脳器質性精神障害 <input type="checkbox"/> 物質乱用・依存 <input type="checkbox"/> 統合失調症圏 <input type="checkbox"/> そううつ病 <input type="checkbox"/> うつ病 <input type="checkbox"/> 社交不安障害 <input type="checkbox"/> 強迫性障害 <input type="checkbox"/> 急性ストレス障害 <input type="checkbox"/> 解離性（転換性）障害 <input type="checkbox"/> 身体表現性障害 <input type="checkbox"/> 全般性不安障害 <input type="checkbox"/> 心的外傷後ストレス障害 <input type="checkbox"/> パニック障害 <input type="checkbox"/> 適応障害 <input type="checkbox"/> その他の不安障害 <input type="checkbox"/> 摂食障害 <input type="checkbox"/> パーソナリティ障害 <input type="checkbox"/> 精神遅滞 <input type="checkbox"/> 広汎性発達障害 <input type="checkbox"/> ADHD <input type="checkbox"/> 行為障害 <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 不明					
7 この方に診断について、以下のうち該当するものに○を付けて下さい。					
○発達障害の有無について A. 広汎性発達障害と考えられる B. 広汎性発達障害ではないと考えられる C. 広汎性発達障害が疑われる D. 広汎性発達障害か判断に迷う E. 不明			○精神病性障害の有無について A. 精神病性の精神疾患と考えられる B. 精神病性の精神疾患ではないと考えられる C. 精神病性の精神疾患が疑われる D. 精神病性の精神疾患か判断に迷う E. 不明		
8 この方に処方している薬物について、該当するものに○を付けて下さい。 A. 抗精神病薬 B. 抗うつ薬 C. 抗不安薬 D. 睡眠導入剤 E. 気分安定薬 F. 薬なし					
9 今回の診療時間について、該当するものに○を付けて下さい。					
○医師によるおおよその診療時間について A. 10分未満 B. 10分以上～15分未満 C. 15分以上～30分未満 D. 30分以上～45分未満 E. 45分以上			○心理士、PSW、OT等による相談・カウンセリングのおおよその時間について A. 10分未満 B. 10分以上～15分未満 C. 15分以上～30分未満 D. 30分以上～45分未満 E. 45分以上		
○今回、医師が行った面接での家族へ対応したおおよその時間について A. 5分未満 B. 5分以上～15分未満 C. 15分以上～30分未満 D. 30分以上～45分未満 E. 45分以上			○今回、心理士、PSW、OT等による相談・カウンセリングでの家族へ対応したおおよその時間について A. 5分未満 B. 5分以上～15分未満 C. 15分以上～30分未満 D. 30分以上～45分未満 E. 45分以上		

以上になります。御協力ありがとうございました。

精神保健相談機関を対象とする調査票（総括）（調査票 C）

相談機関名：_____

質問1 調査対象期間内における全相談者実人数（当事者又は家族等と直接面接した数。デイケアを除く。）について御記入願います。

新規 _____ 人（ _____ 人） 継続支援（再来） _____ 人（ _____ 人）

質問2 質問1のうち24歳以下の相談者数（当事者又は家族等と直接面接した数。デイケアを除く。）について年齢別に御記入願います。

【新規】

11歳以下	人	12歳	人	13歳	人	14歳	人	15歳	人
16歳	人	17歳	人	18歳	人	19歳	人	20歳	人
21歳	人	22歳	人	23歳	人	24歳	人	計	人

【継続支援（再来）】

11歳以下	人	12歳	人	13歳	人	14歳	人	15歳	人
16歳	人	17歳	人	18歳	人	19歳	人	20歳	人
21歳	人	22歳	人	23歳	人	24歳	人	計	人

質問3 専門知識・経験のある精神科医もしくは心理等士によるスーパーバイズを受けることができる体制について、該当するものを○で囲んで下さい。

- A. そのような体制は十分にある
- B. そのような体制は十分ではないものがある
- C. そのような体制はなく、必要性もない
- D. そのような体制はないが、必要性がある

質問4 貴所において精神保健の早期対応・早期支援のために、何が必要だと思いますか。該当するものを○で囲んで下さい。

- A. マンパワーの充実（思う・少し思う・あまり思わない・思わない）
- B. 若者の早期対応・早期支援のためのスタッフの知識増強（研修等の充実）
（思う・少し思う・あまり思わない・思わない）
- C. 医学的な助言等のコンサルテーション
（思う・少し思う・あまり思わない・思わない）
- D. 教育機関等の関係機関との連携体制の整備
（思う・少し思う・あまり思わない・思わない）
- E. その他（ _____ ）

質問5 今後、行政の施策として求めるもの、医療機関、教育機関、社会に求めるものとして何が必要だと思いますか。該当するものを○で囲んで下さい。

- A. 重点施策としての取組み
（思う・少し思う・あまり思わない・思わない）

「裏面にも御記入ください」

- B. 学校での精神保健の授業
(思う・少し思う・あまり思わない・思わない)
- C. 保護者への普及啓発
(思う・少し思う・あまり思わない・思わない)
- D. 社会全般に対して、精神疾患の正しい知識を啓発する
(思う・少し思う・あまり思わない・思わない)
- E. 専門機関等情報が集約されたホームページ
(思う・少し思う・あまり思わない・思わない)
- F. 連携やトリアージを行う若者向けの相談サービス
(思う・少し思う・あまり思わない・思わない)
- G. その他 ()

質問6 若年者(層)への精神保健の早期支援をすすめる上で、生じている問題がありましたら記載願います。

(自由記載)(例:保護者への動機付け,他機関との連携,医療機関の紹介の仕方)

以上になります。御協力ありがとうございました。

精神保健相談機関を対象とする調査票（個票）（調査票D）

相談日：平成 年 月 日
 機関名：

年齢	歳	性別	男・女	同伴者	父・母・親類・知人・その他（ ）
居住地住所	県	市・郡	区・町		
1 当機関での相談以前に相談歴がある場合、その相談年月			H 年 月		
2 当機関での初回相談年月			H 年 月		
3 当該機関で相談が必要と思われる時期から相談までの期間 A. 1ヶ月未満 B. 1ヶ月以上～3ヶ月未満 C. 3ヶ月以上～6ヶ月未満 D. 6ヶ月以上					
4 相談者（複数回答可） A. 本人 B. 親 C. 学校関係者 D. その他家族 E. その他（ ）					
5 相談方法（直接，当事者又は家族等と面接したものに限る。） A. 面接 B. 訪問 C. その他					
6 相談経路（主として） A. 本人自ら B. 親の勧め C. 相談機関などの専門機関からの相談・紹介 D. 学校からの相談・紹介 E. インターネット等の情報を見て F. テレビ・新聞・雑誌等を見て G. 友人・知人からの勧め H. 他の精神科・心療内科以外の医療機関からの相談・紹介 I. その他（ ）					
7 応対者の職種 A. 臨床心理士 B. 保健師 C. 精神保健福祉士 D. 作業療法士 E. 医師 F. その他（ ）					
8 推定される診断名（見立て）：該当するものにチェック（レ点）を付けて下さい。 <input type="checkbox"/> 脳器質性精神障害 <input type="checkbox"/> 物質乱用・依存 <input type="checkbox"/> 統合失調症圏 <input type="checkbox"/> そううつ病 <input type="checkbox"/> うつ病 <input type="checkbox"/> 社交不安障害 <input type="checkbox"/> 強迫性障害 <input type="checkbox"/> 急性ストレス障害 <input type="checkbox"/> 解離性（転換性）障害 <input type="checkbox"/> 身体表現性障害 <input type="checkbox"/> 全般性不安障害 <input type="checkbox"/> 心的外傷後ストレス障害 <input type="checkbox"/> パニック障害 <input type="checkbox"/> 適応障害 <input type="checkbox"/> その他の不安障害 <input type="checkbox"/> 摂食障害 <input type="checkbox"/> パーソナリティ障害 <input type="checkbox"/> 精神遅滞 <input type="checkbox"/> 広汎性発達障害 <input type="checkbox"/> ADHD <input type="checkbox"/> 行為障害 <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 不明（疑いを含む）					
9 この方の診断（見立て）について，以下のうち該当するものに○を付けて下さい。					
○発達障害の有無について A. 広汎性発達障害と考えられる B. 広汎性発達障害ではないと考えられる C. 広汎性発達障害か判断に迷う D. 不明（疑いを含む）			○精神病性障害の有無について A. 精神病性の精神疾患と考えられる B. 精神病性の精神疾患ではないと考えられる C. 精神病性の精神疾患か判断に迷う D. 不明（疑いを含む）		
10 主な相談の内容に○を付けて下さい（主なものを2つまで挙げて下さい） A. 精神的な症状 B. 発達障害の問題 C. 自傷・自殺念慮（企図） D. 虐待 E. 非行 F. 暴力 G. 不登校・ひきこもり H. 友人関係 I. 恋愛や異性関係 J. 家庭・家族の問題 K. アルコール・薬物 L. 進路・進学 M. 就労 N. 体の健康 O. その他（ ）					

<p>1 1 この方に認められると考えられる主な精神的症状や問題について、該当するものに○を付けて下さい（主なものを2つまで挙げて下さい）</p> <p>A. うつ B. 不安 C. 不眠 D. 幻覚や妄想 E. 対人恐怖 F. 強迫観念・強迫行為 G. 摂食障害 H. アルコールや薬物の問題 I. 衝動行為・自傷行為・対人トラブルなどを繰り返す J. 目立ったものはなし</p>
<p>1 2 今回のおおよその総相談時間について</p> <p>A. 10分未満 B. 10分以上～15分未満 C. 15分以上～30分未満 D. 30分以上～45分未満 E. 45分以上</p>
<p>1 3 今回の相談での家族へのおおよその対応時間について</p> <p>A. 5分未満 B. 5分以上～15分未満 C. 15分以上～30分未満 D. 30分以上 E. 家族は同伴していなかった</p>
<p>1 4 精神科・心療内科への通院状況</p> <p>A. 通院中 B. 通院していない C. 通院していたが中断中 D. 不明</p>
<p>1 5 精神科への紹介の必要性</p> <p>A. 通院中でこのまま継続 B. 通院中だが他院の紹介を検討 C. 今後通院が必要 D. 今のところ必要ない E. 判断が難しい</p>
<p>1 6 この方にさらに必要と考えられるサービスは（複数回答可）</p> <p>A. 専門的な心理療法 B. 精神科医による診察 C. 当該施設での継続的相談 D. 別のサービス機関への紹介 E. 特に必要ない</p>
<p>1 7 このケースを通して精神保健の早期支援に関連する御意見や課題等がありましたら記載願います。（自由記載）</p>

以上になります。御協力ありがとうございました。

受診・相談に来られた方を対象とする調査票（調査票E）

記入日：平成 年 月 日

年齢	歳	性別	男・女	職業等	学生の場合：中学生・高校生・大学生・ 専門学校・通信制高校・定時制高校・ 予備校	通学中 ・ 休学中
					学生以外の場合：正職員・非常勤職員・ アルバイト・無職・その他（ ）	就労中 ・ 休職中
居住地住所		県 市・郡 区・町				
1 あなたがこの調査票をもらった場所はどこですか A. クリニック・診療所 B. 精神科病院 C. 総合病院 D. 県精神保健福祉センター・はあとぼーと仙台 E. 保健所 F. 市町村相談窓口 G. 児童相談所 H. 仙台市子供相談支援センター						
2 あなたは精神科もしくは心療内科に現在通院中ですか A. はい B. いいえ						
3 あなたは今の相談機関又は医療機関にどのくらいの期間通っていますか A. 1ヶ月未満 B. 1ヶ月～3ヶ月 C. 3ヶ月～6ヶ月 D. 6ヶ月～1年 E. 1年以上						
4 あなたは今の相談機関又は医療機関に満足していますか A. 満足している B. ある程度満足している C. あまり満足していない D. 満足していない						
5 「あまり満足していない」又は「満足していない」場合、その理由を下記から選んでください (複数回答可) A. もっと時間をかけて欲しい B. もっと頻回に相談や診療をして欲しい C. 心理的な治療・カウンセリングをもっとして欲しい D. もっと適切な相談機関・医療機関を紹介して欲しい E. 専門家の意見を聞きたい F. もっと学校と連携して欲しい G. 交通アクセスが悪い H. 経済的負担が大きい I. 進路や仕事についての相談をもっとして欲しい J. その他（ ）						
6 あなたが受診又は相談した主な理由は何ですか（主なものを2つまで○をつけてください） A. 精神的な症状 B. 発達障害の問題 C. 自傷・自殺念慮（企図） D. 虐待 E. 非行 F. 暴力 G. 不登校・ひきこもり H. 友人関係 I. 恋愛や異性関係 J. 家庭・家族の問題 K. アルコール・薬物 L. 進路・進学 M. 就労 N. 体の健康 O. その他（ ）						
7 あなたが今困っている精神的な症状や問題は何ですか（主にあてはまるものを2つまで○をつけてください） A. うつ B. 不安 C. 不眠 D. 幻覚や妄想 E. 対人恐怖 F. 強迫観念・強迫行為 G. 摂食障害 H. アルコールや薬物の問題 I. 衝動行為・自傷行為・対人トラブルなどを繰り返す J. 目立ったものはなし K. その他（ ）						
8 困っている問題について、はじめにどこに相談したらよいか分かりましたか A. わかった B. だいたいわかった C. あまりわからなかった D. わからなかった						
9 精神科に通う患者についてのイメージについてお答えください A. 良い B. やや良い C. やや悪い D. 悪い						

「裏面にも御記入ください」

<p>10 今回の相談機関・医療機関の他にあなたが困った時に相談できる相手は誰ですか(複数回答可)</p> <p>A. 学校の先生 B. 保健室の先生 C. スクールカウンセラー・学校の相談室 D. 父・母 E. 兄弟・姉妹 F. 友人 G. 彼氏・彼女 H. 精神科医 I. 心療内科医 J. 相談機関の相談員 K. なし L. その他()</p>
<p>11 あなたが相談しづらい相手は誰ですか(複数回答可)</p> <p>A. 学校の先生 B. 保健室の先生 C. スクールカウンセラー・学校の相談室 D. 父・母 E. 兄弟・姉妹 F. 友人 G. 彼氏・彼女 H. 精神科医 I. 心療内科医 J. 相談機関の相談員 K. なし L. その他()</p>
<p>12 あなたには、カウンセリング(対話による心理的援助)は必要だと思いますか</p> <p>A. 必要 B. やや必要 C. あまり必要ない D. 必要ない</p>
<p>13 「必要」又は「やや必要」と答えた場合、どのようなことを期待しますか(主に当てはまるもの2つまでに○をつけてください)</p> <p>A. ただ話を聞いてもらう B. 指導や助言をもらう C. 自分で考える力を身につける D. 自分で対処する力を身につける E. 上手に相談する力を身につける F. その他()</p>
<p>14 「必要」又は「やや必要」と答えた場合、グループによる心理的(仲間との話し合い等による)な治療は必要だと思いますか</p> <p>A. 必要 B. やや必要 C. あまり必要でない D. 必要ない</p>
<p>15 薬物療法(薬の服薬)についてお答えください</p> <p>A. 服用したい B. 必要があれば服用したい C. あまり服用したくない D. 服用したくない</p>
<p>16 あなたが、現在服薬している場合、その薬の名前をお答え下さい(処方箋、お薬手帳等で確認することができます。)()</p>
<p>17 若い人のこころの病気について、相談先を教えてください(窓口があったら利用したい)と思いませんか</p> <p>A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない</p>
<p>18 あなたは、中学校や高校でこころの病気の基本的なことや精神的な問題への対処について学んだことがありますか</p> <p>A. ある B. ない</p>
<p>19 みんなが中学校や高校でこころの病気の基本的なことを学ぶことは役に立つと思いますか</p> <p>A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない</p>
<p>20 みんなが中学校や高校でこころの病気への対処について学ぶことは役に立つと思いますか</p> <p>A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない</p>
<p>21 あなた自身は、こころの病気について勉強する機会が必要だと思いますか</p> <p>A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない</p>
<p>22 あなたの御家族がこころの病気について勉強する機会が必要だと思いますか</p> <p>A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない</p>
<p>23 あなたは、同じようなことで悩んでいる同世代の方と交流したいと思いますか</p> <p>A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない</p>
<p>24 あなたの御家族に同じようなことで悩んでいる家族の方との交流の場があればいいと思いませんか</p> <p>A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない</p>
<p>25 あなたは、就労や就学のための相談や支援を受けたいと思いませんか</p> <p>A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない</p>

以上になります。御協力ありがとうございました。

受診・相談に来られた方に同行された方を対象とする調査票（調査票F）

記入日：平成 年 月 日

1 相談又は診療にこられた方（当事者）についてお答えください						
年齢	歳	性別	男・女	職業等	学生の場合：中学生・高校生・大学生・専門学校・通信制高校・定時制高校・予備校	通学中 ・ 休学中
					学生以外の場合：正職員・非常勤職員・アルバイト・無職・その他（ ）	就労中 ・ 休職中
2 当事者の方に同行された方（御家族等（あなた））についてお答えください						
年齢	歳	性別	男・女	職業	会社員（常勤・非常勤）・自営業・農業 アルバイト・パート・無職・その他（ ）	
当事者との関係	A. 父 B. 母 C. 配偶者 D. 兄弟・姉妹 E. 親戚 F. その他（ ）					
3 御家族等（あなた）がこの調査票をもらった場所はどこですか A. クリニック・診療所 B. 精神科病院 C. 総合病院 D. 県精神保健福祉センター・はあとぽーと仙台 E. 保健所 F. 市町村相談窓口 G. 児童相談所 H. 仙台市子供相談支援センター						
4 当事者の方は精神科もしくは心療内科に現在通院中ですか A. はい B. いいえ						
5 当事者の方は、今の相談機関又は医療機関にどのくらいの期間通っていますか A. 1ヶ月未満 B. 1ヶ月～3ヶ月 C. 3ヶ月～6ヶ月 D. 6ヶ月～1年 E. 1年以上						
6 御家族等（あなた）は今の相談機関又は医療機関に満足していますか A. 満足している B. ある程度満足している C. あまり満足していない D. 満足していない						
7 「あまり満足していない」又は「満足していない」場合は、その理由を下記から選んでください（複数回答可） A. もっと時間をかけて欲しい B. もっと頻回に相談や診療をして欲しい C. 心理的な治療・カウンセリングをもっと欲しい D. もっと適切な相談機関・医療機関を紹介して欲しい E. 専門家の意見を聞きたい F. もっと学校と連携して欲しい G. 交通アクセスが悪い H. 経済的負担が大きい I. 進路や仕事についての相談をもっと欲しい J. その他（ ）						
8 当事者の方が受診又は相談した主な理由は何ですか（主なもの2つまで○をつけてください） A. 精神的な症状 B. 発達障害の問題 C. 自傷・自殺念慮（企図） D. 虐待 E. 非行 F. 暴力 G. 不登校・ひきこもり H. 友人関係 I. 恋愛や異性関係 J. 家庭・家族の問題 K. アルコール・薬物 L. 進路・進学 M. 就労 N. 体の健康 O. その他（ ）						
9 当事者の方が今困っている精神的な症状や問題は何ですか（主にあてはまるものを2つまで○をつけてください。） A. うつ B. 不安 C. 不眠 D. 幻覚や妄想 E. 対人恐怖 F. 強迫観念・強迫行為 G. 摂食障害 H. アルコールや薬物の問題 I. 衝動行為・自傷行為・対人トラブルなどを繰り返す J. 目立ったものはなし K. その他（ ）						

「裏面にも御記入ください」

10 当事者の方の困っている問題について、はじめにどこに相談したらよいか分かりましたか A. わかった B. だいたいわかった C. あまりわからなかった D. わからなかった
11 精神科に通う患者についてのイメージについてお答えください A. 良い B. やや良い C. やや悪い D. 悪い
12 今の相談機関・医療機関の他に御家族等(あなた)が困った時に相談できる相手は誰ですか(複数回答可) A. 学校の先生 B. 保健室の先生 C. スクールカウンセラー・学校の相談室 D. 夫・妻 E. 兄弟・姉妹 F. その他の親戚 G. 友人 H. 精神科医 I. 心療内科医 J. 相談機関の相談員 K. なし L. その他()
13 御家族等(あなた)が相談しづらい相手は誰ですか(複数回答可) A. 学校の先生 B. 保健室の先生 C. スクールカウンセラー・学校の相談室 D. 夫・妻 E. 兄弟・姉妹 F. その他の親戚 G. 友人 H. 精神科医 I. 心療内科医 J. 相談機関の相談員 K. なし L. その他()
14 家族向けの研修プログラムが必要だと思いますか A. 必要 B. やや必要 C. あまり必要ない D. 必要ない
15 当事者の方への薬物療法(薬の服薬)についてお答えください A. 必要 B. やや必要 C. あまり必要でない D. 必要ない
16 当事者の方が、現在服薬している場合、その薬の名前をお答えください ()
17 若い人のこころの病気について、相談先を教えてくださいの窓口があったら利用したいと思いますか か A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない
18 中学校や高校でこころの病気の基本的なことを学ぶことは役に立つと思いますか A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない
19 中学校や高校でこころの病気への対処について学ぶことは役に立つと思いますか A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない
20 当事者の方が、こころの病気について勉強する機会が必要だと思いますか A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない
21 御家族の方が、こころの病気について勉強する機会が必要だと思いますか A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない
22 当事者の方が、同じようなことで悩んでいる同世代の方との交流の場があればいいと思いますか か A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない
23 御家族の方が、同じようなことで悩んでいる家族の方との交流の場があればいいと思いますか A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない
24 当事者の方が、就労や就学のための相談や支援が必要だと思いますか A. そう思う B. 少しそう思う C. あまりそう思わない D. そう思わない

以上になります。御協力ありがとうございました。